

平成17年度第6回岐阜県事業評価監視委員会議事概要書

日 時: 平成17年9月9日(金)

13:15~15:10

場 所: 全建総連厚生会館 5階 大会議室

開会の挨拶 (岡田 部課長兼工事検査室長)

議 事

1 議事概要書署名委員の指名

委員長から署名委員として永瀬委員、野村委員、福富委員を指名。

2 再評価実施個所の詳細説明及び審議について

① 下水道事業[上下水道課所管分]

・再評価箇所 高山市 特定環境保全公共下水道事業(久々野処理区)

特定環境保全公共下水道事業(宮処理区)

・説 明 者 前坂 高山市下水道課主幹

【審議内容】

[特定環境保全公共下水道事業(久々野処理区)]

Q) 汚泥はどのくらい発生するのですか。

A) 現在は 500m³ / 月(濃縮汚泥ベース)出ています。

Q) その汚泥は、どの様に処理しているのですか。

A) オキシデーション・ディッチ方式で処理する過程で発生した汚泥を、10tダンプにて上石津町地内の処理施設に搬送して炭化処理しています。炭化処理した汚泥については、高山市内の公園等で利活用しています。

Q) 住民アンケートで、20%がくみ取り、14%が浄化槽となっていました。アンケートはすでに供用開始している部分を対象に行ったものですか。

A) アンケート調査は、計画区域で行いました。

Q) そうすると、この事業が完了するとこの比率は変わってくるのですね。

A) はい。

Q) 供用を開始している区域の人口割合を教えてください。

A) ご質問の人口割合は把握しておりませんが、久々野地区の行政人口に対する下水道の普及率は約43%となります。また、管路延長では計画延長22kmに対し約17kmが施工済ですので、約77%の区域内整備率となります。

[特定環境保全公共下水道事業(宮処理区)]

Q) 資料(アンケート)を見ると、宮地区は浄化槽が多かったように思いますが、これは久々野地区と比べると供用開始区域が少ないためにこのような結果になっているのですか。

A) はい。宮地区は水洗化率で45%と整備された部分の半分程度で、久々野地区に比べると低いです。

Q) 最終的に目標はどのくらいですか。100%ですか。

A) 目標ですが、できるだけ早く達成したいと考えています。

- Q) 久々野地区では終末処理場を新設しているのに対し、宮地区では高山市の終末処理場を利用しているため、事業費ベースで比較すると宮地区の方が安くなっています。しかし、事業効果(B/C)にあまり差がありません。どうしてですか。維持管理の面でも終末処理場がない宮地区の方が経済的だと思いますが、宮地区では高山市の終末処理場を利用するにあたり負担金等を支払っているのですか。
- A) 高山市の終末処理場で宮地区の下水を処理するのですから、使用料をなしにすることは出来ません。計画処理量に対する建設費と処理量に相当する分の維持管理費を宮地区で負担しています。このため、宮地区と久々野地区の事業効果にあまり差がない結果になったと思います。
- Q) 宮地内に終末処理場を建設すると、宮地区から高山市の終末処理場に下水を導水するための下水管が不要となるため経済的になると思いますがどうでしょう
- A) 高山市の終末処理場を利用することは、(そこにつなぐ間、民家のないところに管渠を延長しなければならないので、)管の敷設だけで考えると割高になります。しかし、終末処理場の建設費や維持管理費等を総合的に考えると、高山市の終末処理場を利用する方が経済的でした。

〔両処理区共通〕

- Q) 事業実施にあたって、1世帯あたりの負担金はどの程度ですか。アンケート調査の結果では両地区とも年間1万円程度という金額がありました…。
- A) アンケート中の金額は、「河川の水質保全のために、どの程度なら負担してもよいですか?」という内容の調査結果です。したがって、下水道整備に対する負担金や、使用料というものではありません。負担金は地区毎で異なりますが、事業としては両地区とも1世帯当たり40万円を超える負担金をいただき、建設費の一部にあてています。
- Q) 同じ地区でも、人家の集まった場所に住んでみえる方と、人家から離れた場所に住んでみえる方では条件が異なると思います。負担金はどの様に決めていますか。
- A) 負担金については、公共下水道事業の場合は受益面積によって決めることが多いようですが、この特環事業では一軒当たりいくらということで、その額も市町村の財政状況や地域の考え方によってまちまちです。

【審議結果】

高山市 特定環境保全公共下水道事業(久々野処理区)及び同(宮処理区)の再評価は適正に実施されていることを確認し、事業主体の対応方針(継続)を了承する。

② 下水道事業[上下水道課所管分]

- ・再評価箇所 美濃市 公共下水道事業(長良川左岸処理区(雨水))
- ・説明者 瀨瀬 美濃市下水道課長

【審議内容】

- Q) 事業費は順調に推移しているとの説明がありましたが、平成8年度に事業に着手して、事業期間は残すところあと数年となっているのに進捗率の約62%は低いと思います。説明のなかで必要に応じて計画の変更を行うとのことでしたが、計画を変更する予定があるということですか。
- A) 説明のなかの計画の変更とは、地元要望により管渠の位置を少し変える等、軽微な変更のことです。計画期間の延長等の大きな変更ではありません。
- Q) 事業区域が市街地化してきているため、田畑だった頃に比べると、雨水等の流出量が増加していると思われます。既に施工済みの下流部は対応できているので

すか。

- A) 事業を計画した時には、この地区には東海環状自動車道のICが出来ることが決まっていたため、この地区が市の新しい市街地になることが分かっていました。そのため、市街地化することを見越した水路断面で計画・設計しています。よって、市街地化により流量が増加しても水路断面が不足することはありません。
- Q) 平成 16 年度に洪水被害を受けているとの説明がありましたが、この事業が済んだところでは被害が軽かったなどの事業効果は確認されましたか。
- A) 平成 16 年度の台風 23 号では、美濃市内では雨がほとんど降りませんでした。雨は長良川上流の郡上市で多量に降り、長良川が増水し、越水したため起きた災害です。この事業が想定している内水災害ではありませんでした。(昨年度の越水状況を地図にて説明)
- Q) この事業では、どの程度の雨量に対応した排水路等を設計していますか。
- A) 最大時間雨量を 61mm/h、7年確率で設計しています。
- Q) この様な事業では、昔からある小さい河川の水量が少なくなるといった環境問題が起こるとよく耳にしますが、この地区ではどうでしょうか。
- A) この地域は小河川の流末ですので、そのような問題は起こらないと思います。
- Q) 市街地化することにより農地面積が減り、雨水の流量が増えると思いますが、どの様に対応するのですか。
- A) 市街地化して流量が増えてもよいように、水路断面を大きくする工事をしています。
- Q) 最近では、時間雨量 100mm を終える大雨がさらに降るため、内水対策としてポンプアップによる排水も必要になってくると思います。ポンプの設置は検討されているのでしょうか。現在行っている内水対策がありましたら教えて下さい。
- A) 局地的な大雨が降った場合には、雨水を長良川に排水することによって内水災害を防ぐことが出来ます。しかし、多量の雨が広範囲に降り長良川が増水している場合には、長良川に排水することが出来なくなるため、内水災害が発生する恐れがあります。そのため、調整池を2カ所(地図にて位置を示す)設けています。それでも、長良川が増水している時に調整池が満杯になるとどうにもなりません。このため、地元から「ポンプ場を整備してほしい」と強い要望が上がっていますが、河川行政では、ポンプ場は下流から順にというルールがありますので、すぐに整備するのは難しいのが現状です。

【審議結果】

美濃市 公共下水道事業(長良川左岸処理区(雨水))の再評価は適正に実施されていることを確認し、事業主体の対応方針(継続)を了承する。

③ 林道事業[森林整備室所管分]

- ・再評価箇所 揖斐川町 森林居住環境整備事業(瀬戸谷線)
- ・説明者 渡辺 揖斐川町久瀬振興事務所基盤整備課長

【審議内容】

- Q) この林道の維持管理は誰が行うのですか。
- A) 揖斐川町の場合、町が作った林道は町で維持管理を行います。但し、草刈りや路面補修などの簡易な維持管理については、地元の方に行っていただきます。災害等の復旧は、町で実施します。
- Q) 説明資料に、リサイクル認定製品の利用という記載がありますが、どういったこと

に使用されていますか。

A) 側溝を布設する際に敷く碎石(再生碎石)や、リサイクル認定を受けているコンクリート二次製品、法留めの間伐材などです。

Q) 資料のなかに、コスト縮減の取り組みとして「市場単価の採用」との記載がありますが、内容を教えて下さい。

A) 工事価格は、国の積算基準(歩掛り)により材料費、機械経費、人工(にんく)数等を積み上げて算出する方式が一般的ですが、それらをすべて含んだ施工単価が物価資料((財)経済調査会等発行)に掲載されている場合、より実態に近い単価ということで、それを採用するというものです。

Q) それは、今まで実態からずれた単価が設定されていたということであって、コスト縮減とは言えないのではないですか。

A) 県のコスト縮減のメニューのなかに(より実態に近い積算をめざす主旨で)「市場単価の採用」という項目があることから記述したものです。

【審議結果】

揖斐川町 森林居住環境整備事業(瀬戸谷線)の再評価は適正に実施されていることを確認し、事業主体の対応方針(継続)を了承する。

④ 林道事業[森林整備室所管分]

・再評価箇所 恵那市 森林環境保全整備事業(大沢線)

・説明者 鈴木 恵那市林業振興課長

【審議内容】

Q) 同じ林道で事業名が違う理由を教えてください。

A) 「森林居住環境整備事業」は、山村と都市の共生・交流を図り、快適な居住環境を広く創出することを目的としており、事業のメニューに、森林基幹道開設、森林管理道開設があります。一方、「森林環境保全整備事業」は、森林の持つ機能に応じた森林整備を計画的に推進することにより、森林の有する多面的機能の維持・増進を図り、森林環境の保全に資することを目的としたもので、事業のメニューとして、森林管理道開設、森林施業道開設があります。今回評価していただく林道事業は、国で用意している事業に含まれているメニューを活用したもので、管理道だからこの事業でしか出来ない、というものではありません。

【審議結果】

恵那市 森林環境保全整備事業(大沢線)の再評価は適正に実施されていることを確認し、事業主体の対応方針(継続)を了承する。

⑤ 林道事業[森林整備室所管分]

・再評価箇所 飛騨市 森林環境保全整備事業(灘見谷線)

・説明者 十松 飛騨市神岡振興事務所建設水道課長

【審議内容】

Q) 先ほどの「森林環境保全整備事業(大沢線)」に比べると、費用対効果(B/C)が低いですが、どうしてですか。利用できる木材の量が少ないからですか。

A) 主な原因はそうだと思いますが、地形的な条件もあろうかと思います。

Q) 天然の広葉樹が多いということは、水源かん養機能が高いことを示していると思

います。水源かん養機能は、事業効果を出す際に考慮しているのですか。考慮しての結果なのですね。

A) そうです。

Q) 事業区域に林道から離れた区域がありますが、この部分の森林施業はどのように行っているのですか。

A) 徒歩で現場まで行って作業します。林道が完成しましたら、次は作業道を整備したいと思います。

Q) その場所までは、距離的にはどれくらいあるのですか。

A) 直線距離で約4km程ですが、(勾配・地形を考慮すると)実際にはもっとあろうかと思っています。

Q) 舗装していないため、豪雨の時に林道が原因で簡易水道水源への土砂流入等の被害が起きないか心配です。特別な手当(対策)がありましたら教えて下さい。

A) 現在のところ、特別な手当は行っていません。水源施設は、砂防堰堤に設置してありますので、大丈夫だと考えております。

【審議結果】

飛騨市 森林環境保全整備事業(灘見谷線)の再評価は適正に実施されていることを確認し、事業主体の対応方針(継続)を了承する。

3 審議結果の取りまとめ

本日審議した各事案については、事業主体の対応方針を了承することを確認した。

閉会の挨拶 (岡田 部課長兼工事検査室長)

(会議の状況)

